



会報

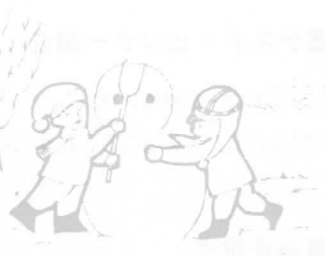
DISTRICT 253

CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA



雪たるま

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 P.M 12:30—1:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 5775

会長 鈴木 弥 一 郎
幹事 中 江 亮

Service. I believe in Rotary.

奉仕・ロータリーを私は信奉する。

第 894 号 1977. 2. 15 (火) (ゆき) No.27

例会場変更 (松文産業工場)

— 本日のプログラム —

1. 点 鐘
2. ロータリーソング (手に手つないで)
3. ゲスト・ビジター紹介
4. 会長挨拶～職場見学の意義について
5. 会長報告
6. 幹事報告
7. 小松職業奉仕委員長報告
 ◆後半の活動として松文産業KKの職場見学を計画しました。山本君の御好意に感謝します。
8. 山本正君 (松文産業工場長) の講話
6. 出席報告

■ゲスト・ビジター紹介

佐藤成生君一鶴岡西R・C

今野義介君、佐藤昭吉君、佐藤五右工門君、三浦徳一君、本間新之丞君一温海R・C

■会長報告

① 去る8日湯田川温泉七内旅館にて庄内分区の会長・幹事会が開催されました。その決定事項についてお話し申し上げます。

3月21日八幡クラブのホストで八幡公民館に於てインターシター・ミーティングが開催されます。研修部門につきましてはクラブ奉仕A、クラブ奉仕B、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の5部門に亘って居り、当クラブは職業奉仕のモデレーターを担当することになって居ります。尚各クラブ共15名の出席会員を義務付けられて居りますのでよろしく御願い申し上げます。詳細は後日打ち合せ致します。

② 4月の末、来訪するG・S・Eの受入れについての御知らせですが、一行は団長以下5名で前日は温海温泉に宿泊、4月28日に庄内分場、山形大学農学部等を見学、17時より鶴岡西クラブと歓迎合同例会後宿泊、翌29日羽黒観光、後酒田へと云う予定ですが、その節は色々御協力を御願い申し上げます。

③ 今間さんから忌明の御礼状が参って居ります。

④ 本日は職業奉仕委員会さんの会員の職場見学と云う当クラブとしては初めてのプログラムであります。松文産業さんの御好意によりまして親しくその企業に関連する新しい知識を吸収する事が出来ました。我々職業人として一人一人が立派な職業奉仕に日常励まれている訳ですが、一層の権威を保たれるよう心がけて戴きたいと思ひます。本日は地方に雄飛する松文産業さんの職業奉仕を目のあたり見学させて戴きまして誠に有り難度う御座いました。厚く御礼申し上げます。

■幹事報告

○ 会報到着～遊佐R・C

○ 認証状伝達式～第362地区清水西R・C

清水市総合運動場 鈴与記念体育館

4月24日(日) 12時登録料 @ 10,000円

○ R・A・C年次大会～第352地区

泉市厚生年金スポーツセンター

4月16日～17日（日）ホストクラブ～泉R・A・C

詳細後日連絡あり

○新入会員～金沢春雄君公表

異議ある方は10日以内に理由と氏名を記して幹事迄提出して下さい。

■スピーチ 山本 正君

＜鶴岡の織物業界の沿革＞

当市の絹織物の始りは庄内藩主酒井忠徳公が藩士の内職として始めた。徳川末期から明治初期まで家内工業として続けられ、明治21年には工業の体裁を整えるのが地元消費に限られてあった。その後日清戦争や大地震があり不況にあったが福井方面では羽二重織が盛んであったので、視察を行ったり技術者を実習に派遣したりして庄内に羽二重工場（後の羽前織物KK）が設立された。その後鶴岡水力電気創立、又県費補助などあり明治37年には業者数87軒となった。この様な飛躍的に大量生産地となったのは郷土で発明された斎藤外市式力織機、平田式力織機が大いに力になった。

この頃から織業は次第に会社又は団体組織化の傾向になり、重目羽二重から軽羽二重の移行が行われたが、粗悪品など流出し不況にあい30戸の織業整備があった。それで粗悪品対策として織物製品検査所が設けられた。

大正期に入り、不況に見舞われ業者は23軒になり、7年から8年には再び盛況、37軒にふえ、製品も羽前羽二重、朱子だけでなく縮緬、朱子縮緬の試作研究も行われた。昭和初期には不況で17軒になったが昭和5年には人絹織物が完成、不況を避ける事が出来た。

昭和7年には同業者による組合設立が確立し、大東亜戦争の時は羽前織物、鶴岡織物、松文産業、羽前絹練となり殆んど軍事用羽二重（落下傘用）の生産のみとなった戦後は各産地とも荒廃し復興計画は遅々として進まなかった。昭和24年には5社となり、インフレ経済の中で悩まされた。

28年にはデフレ政策金融引締が行われたが、好況より不況の時が多く、今日現在では松文と松岡機業の2社のみとなった。この間に原料は絹から人絹、合織と多様化し、43年～48年に亘り繊維工業構造改善の近代化が計られ、生産性は向上し当地区の織機は761台程あります。福井県は8万台といわれております。

松文産業について

本社は福井県勝山市で、工場は鶴岡、櫛引、滋賀県の栗東町の4カ所にあり独立採算制を取っておる。創業は明治32年、石上茂兵衛が羽二重を手織りで織ったのが始まりと云われ大正2年、松村文四郎が経営を引きつぎ名称を松文とし、大正13年合資会社、昭和19年株式会

社になり、現在資本金2億5千万円、従業員1,200人（内鶴岡、櫛引で350人）織機約1,500台（内鶴岡、櫛引で500台）社長は工藤勝造です。



松文産業KK職場見学

鶴岡工場は昭和7年8月に創設、初代工場長は石塚保、2代目が男網さんです。

当社は開発に熱心で現在はポリエステル加工糸織物が主体ですが、開発時は日本で3社しかなかった。品質についても取引先からも信頼を受けております。当社は中小企業がだんだん大きくなった感じで当社の経営方針は新しい物にチャレンジする、又中量産の出来る婦人服地でファッションの先端を行くものをねらっております。

■出席報告

本日の出席	会員数	70名	欠席者	阿部(公)君、市川君、玉城君、上林君、黒谷君、石倉君、三浦君、角田君、板垣(広)君、鷺田君、笹原君、高橋(正)君、諸橋君
	出席数	57名		
	出席率	81.43%		

前回の出席	前回出席率	78.57%	メンバー	阿部(襄)君—酒田R・C 笹原君—仙台R・C 藪田君—気仙沼R・C 市川君、板垣(俊)君、小松君、嶺岸君、板垣(広)君、佐藤(友)君、高橋(正)君、中村君—鶴岡西R・C 早坂(源)君—東京研究会
	修正出席数	67名		
	確定出席率	95.71%		

<会報委員会よりお願い>

- ・毎回会員各位にお願いしているように、スピーチ等の場合、原稿又は要旨（箇条書きでも可）を提出して頂くと、省力化が計れますので、御協力下さい。
- ・各委員会の委員長の皆さん!! 委員会報告用紙がありますので、御利用下さい。
- ・原稿、要旨、報告事項はスピーチ等終了後、直ちに会報委員にお渡し下さい。
- ・写真は印刷の関係上なるべく白黒でお願いします。